

脊椎だより

創刊1号

平成15年3月

■発行日
平成15年3月10日

脊椎だより挨拶

佐賀医科大学整形外科

會田 勝広



平成13年6月1日より佐賀医科大学整形外科教室にて、脊椎、すなわち背骨の疾患を担当しております。脊骨の疾患とはどのような症状の事かといえは、まず<腰痛><首の痛みやひどい肩こり><手足のしびれ><手足の力が入りにくい><長く歩くと足がしびれて歩けない>などの症状があげられます。

<背骨>とは、頸椎=首の骨が7個、胸椎=背中の骨が12個、腰椎=腰の骨が5個の計24個の骨が、上は頭蓋骨から下は骨盤までつながっている、人間の体の柱となる大切なものです。その役割は、第一に体の中心にあって体重を支える柱となる事、第二に頭蓋骨の中の脳からつながっている<脊髄>という手足・内臓を司る神経のかたまりの入れ物・通り道として存在する事です。

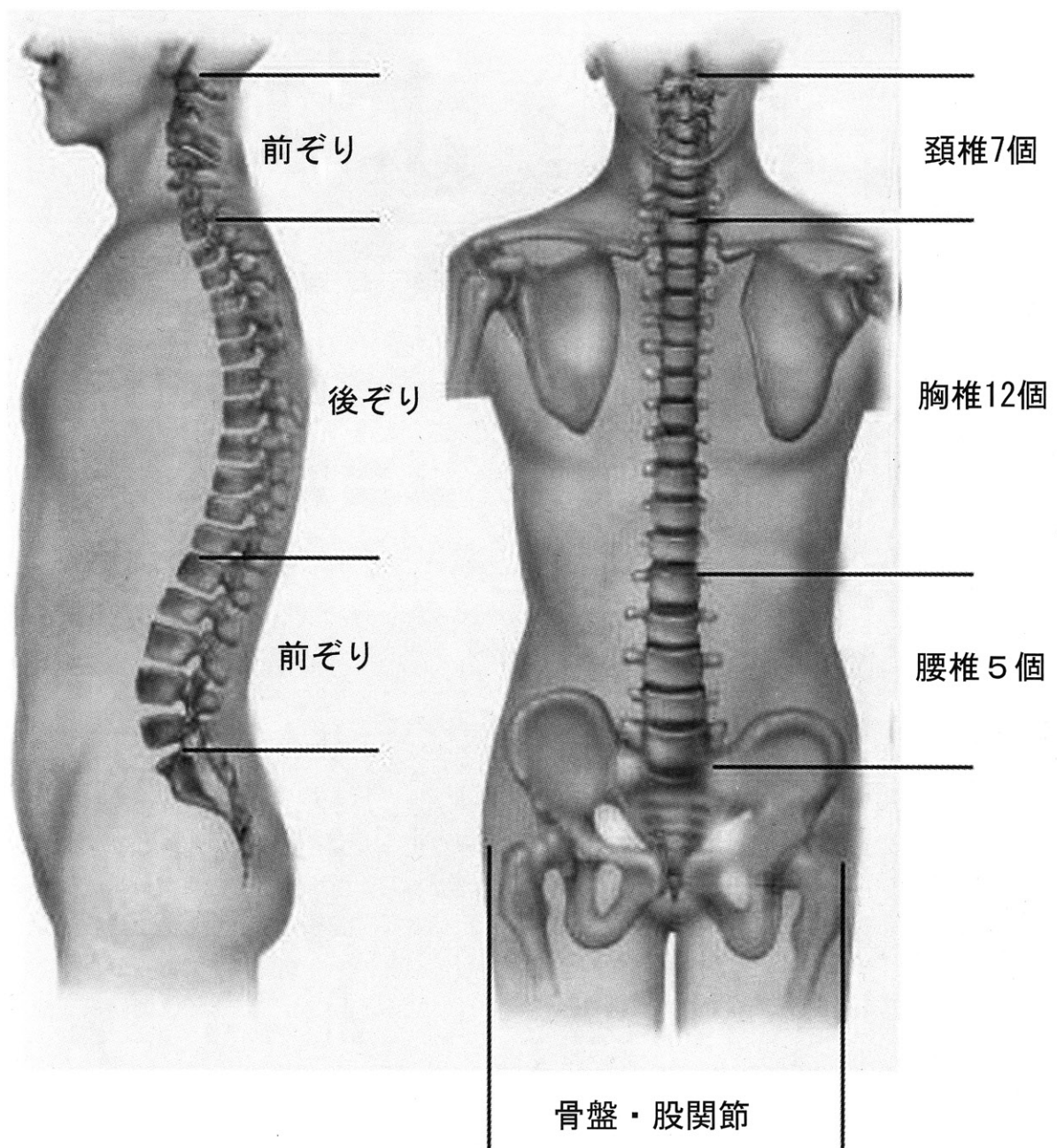
第一の柱の役割が故障しますと、首や腰の痛みとなります。代表的な病気には、<ぎっくり腰>や骨粗鬆症などがあげられます。第二の脊髄の入れ物としての役割が故障すると、手足の痛みやしびれ・筋力低下などにつながります。代表的な病気には、<椎間板ヘルニア>などがあげられます。

皆様が一番多くお困りの<腰痛>ですが、①いつから ②どんなときに ③どの場所が痛いのか、で考えてみましょう。先に述べました理由により、(おしりから下の)下肢に痛みやしびれを伴っている場合は要注意です。脊髄神経にまで病気が及

んでいると考えるからです。しかし、①何か仕事で無理をしてから ②じっと休んでいると痛みは和らぐが、体の動き始めに強い痛みがある ③右側・左側のどちらか腰の部分のみが痛む。このような痛み方であれば、いわゆる<ぎっくり腰>、すなわち腰の捻挫である事が多く、割合と早く(とはいえ4~5日はかかりますが)治っていくもので、心配のいらぬ腰痛である事が多いと言えます。危険信号としては、①3週間以上続いている

②寝ている時にもうずいて痛む ③下肢にも症状がある、の3点があげられます。このような症状の時には、ぜひとも私たち佐賀医科大学を含めた、整形外科専門のある病院への受診をおすすめしたいと思います。

腰痛は、人類が2足歩行をはじめた大昔からつきまとう、誰もが生涯で何度か経験する痛みです。しかし、それくらい古くからあるものなのに、いまだに完全な原因の解明・治療法は得られていないのです。それには、腰痛を起こすと考えられている要因・原因が多すぎる事と、検査をしても異常として出てこない腰痛の方が多いため、と考えられます。そうは言っても、現代医学の進歩により、この分野の研究がすすんでいるのも事実であり、次回からはいろいろな背骨の病気をひとつずつ取り上げて、治療法も含めて詳しくお話していく予定です。



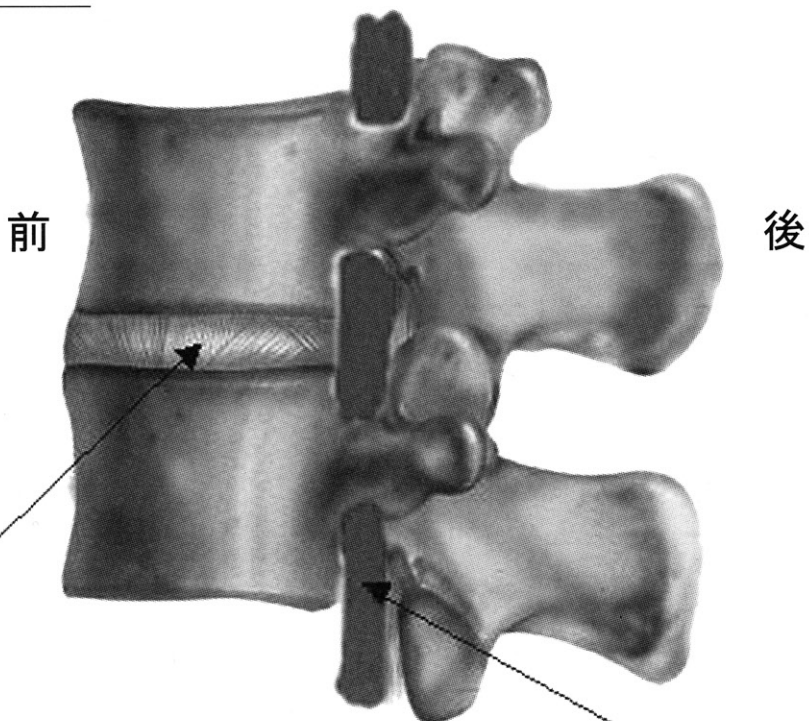
<脊椎の構造・配列>

脊椎は上図のように、体の中心にあって、頭蓋骨から骨盤の間に24個の骨がつながってできています。一つ一つの骨の間をつなげるクッションの役割をしているのが椎間板という比較的柔らかい組織です。横からみた時の脊椎の曲がり方も大切なことで、頸椎と腰椎は前ぞり、胸椎は後ぞりです。この脊椎の中に脊髄という、脳とつながっている神経の束が走っています。その神経は頸椎ならば主に上肢の働きを、腰椎ならば主に下肢の働きを司っているのです。

脊椎は、体重を支えて、まさに体の柱となる事、そして脊髄という大事な神経の入れ物・通り道として脊髄を守るという2つの大事な働きがあります。脊椎が変形したり、曲がったり、骨粗鬆症になると柱として支えきれなくなって姿勢が変わったり、首や背中・腰が痛んだりすると考えられています。また、変形や骨折、椎間板がはみだすと（椎間板ヘルニアのことです）、中の脊髄に影響がおよんで、手や足の痛み・しびれ・脱力などの症状が起こるのです。

<腰椎の構造（拡大図）>

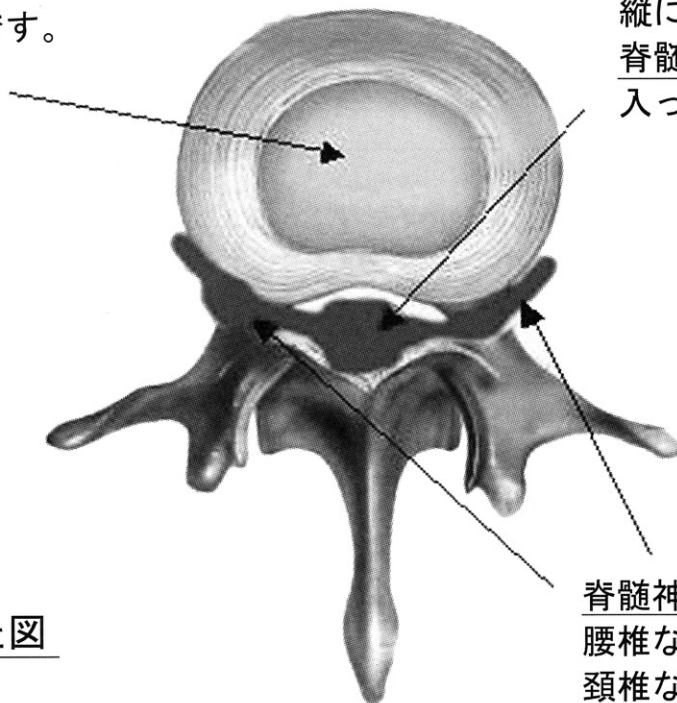
横から見た図



椎間板は骨と骨のあいだのクッションの役割です。

背骨の中には、縦にながく脊髄神経が入っています

上から見た図



脊髄神経は腰椎なら下肢へ頸椎なら上肢へつながります

佐賀医科大学脊椎手術内訳

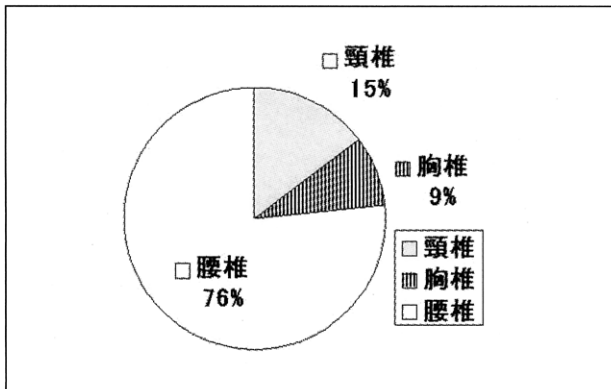
佐賀医科大学整形外科 森本 忠嗣

1998年佐賀医科大学整形外科に佛淵教授がご赴任されてから、当院において脊椎手術症例も飛躍的に毎年増加しています。今回、背椎便りを創刊するにあたり、1998年から2001年までの脊椎手術122症例の内訳を集計しましたので、掲載いたします。

1. 脊椎手術高位の内訳 (図1)

脊椎は大まかに分けると、頸椎(くびの部分)、胸椎(せなかの部分)、腰椎(こしの部分)からなり、当院で行った脊椎の手術高位の内訳は、頸椎15%、胸椎9%、腰椎76%となっており圧倒的に腰椎手術例が多くなっていました。

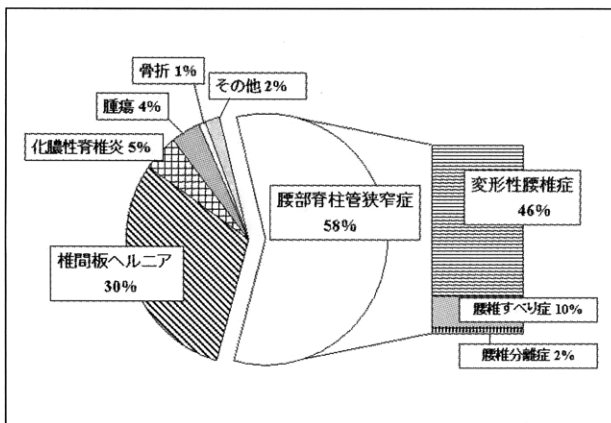
図1 佐賀医科大学整形外科脊椎手術高位内訳 (1998-2001)



2. 腰椎手術の内訳 (図2)

一番多かった腰椎手術の病気の内訳ですが、腰部脊柱管狭窄症が一番多く58%と大半を占めており、次いで腰椎椎間板ヘルニア30%、化膿性脊椎炎5%、腫瘍4%、骨折1%、その他2%の順となりました。

図2 腰椎手術内訳 (98~01)



1998(平成10)年厚生省(現厚生労働省)の国民生活基礎調査の「性・年齢・階級別に見た有訴者」(http://www1.mhlw.go.jp/toukei/h10-ktyosa/index_8.html)によると国民の訴える最も多い症状は腰痛・肩こりで、年齢とともに訴える人が増えています。人類の祖先が、樹上生活から2本足を使った直立歩行へと進化し、約5kgもある頭を支えるようになったことから肩こりが、また、頭・首・両腕すなわち上半身を腰で支えることになり腰の負担が増え腰痛が発生したとも言われています。

動物に腰痛がないのか?といわれれば、競走馬やイヌ(ダックスフントやビーグル)などには椎間板ヘルニアによる腰痛が発生することが知られています。

ところで腰痛に関してですが、私達の整形外科へも多くの方が腰痛のために受診されます。その中で、手術にいたるほどひどい患者さんは、10人に1人位ですが、今回の統計でも腰椎手術症例が多かったということもあり、脊椎だよりでは、腰痛の原因や対処の仕方、腰椎の病気などを中心に、最近の研究でわかってきた事や、私たち佐賀医科大学で行なわれている研究などをご説明し、つらい痛みや不快感・恐怖でスポーツが楽しめない方、仕事に支障をきたしている方、日常生活で困ってらっしゃる方々の一助になればと思っています。

<脊椎の病気の検査>

① 脊髄腔造影検査・CT検査

佐賀医科大学整形外科 森本 忠嗣

脊椎手術を受けるにあたって必要な検査がいろいろございます。入院後に行われる検査をひとつずつ説明していきたいと考えております。今回は、脊髄腔造影検査とCT検査についてご説明します。

【目的】

手術をより安全に、より確実にを行うための検査です。

脊髄・脊髄神経に外から圧迫がないか、又、それら神経の中に腫瘍などができていないか、診断することが目的です。

【方法】

レントゲン台の上で横向きになり、腰の部分にある骨の隙間から造影剤という薬を注射器で注入します。通常、レントゲンでは見ることでできない脊髄神経が、この薬によりレントゲンで見えるようになるので、色々な方向からレントゲン写真を撮り、背

骨の中にある脊髄神経に病変がないかを探します。

造影剤注入後、さらにCT検査を行うと、体を輪切りにしたと同じような見え方で脊髄神経が見えます。これにより横断面の神経圧迫状態を詳しく評価します。(図をご覧ください)

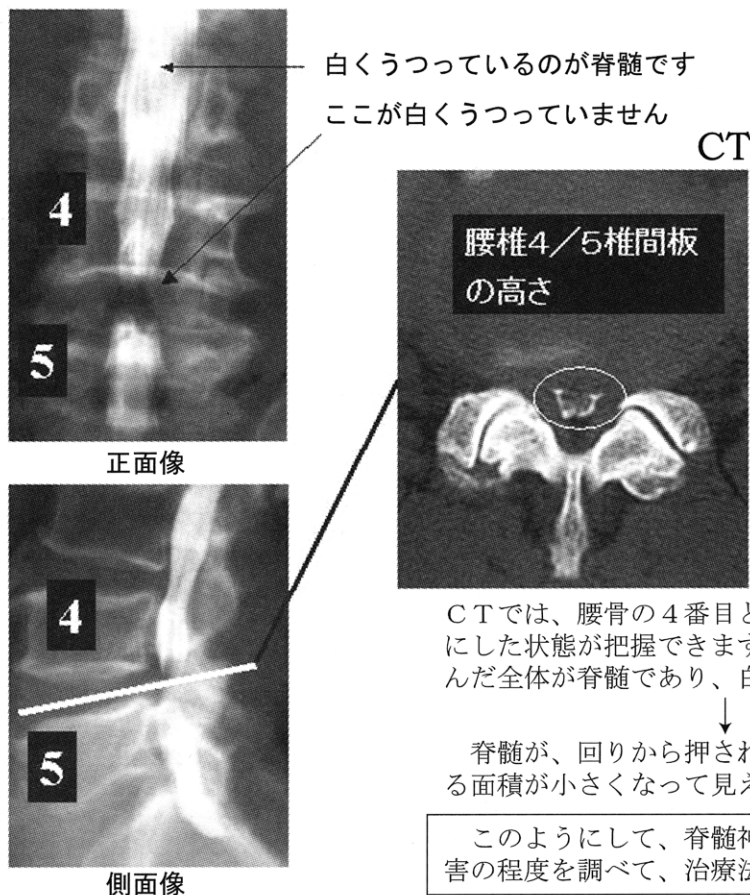
【合併症・副作用】

10人に1人の割合で、検査の後に頭痛が起きることがあります。自然に治る事が多いので心配はありません。その頭痛の予防として、検査の後半日は安静に、なるべく横になって頂きます。非常に稀ですが、造影剤のアレルギー、すなわち体に薬が合わないために生じるいろいろな症状(皮疹・喘息・痙攣・ショック)が起こる時がありますので、この検査は外来通院では施行せず、入院された後に行っています。

(尚、当院では、頭痛以外の脊髄腔造影検査合併症は発生していません。)

<脊髄造影>

正面像で腰椎(こしの骨)の4番目と5番目の間で造影剤のうつり具合が悪く、この部分の神経が障害されています。



編集後記

お待たせいたしました。「股関節だより」に続く第二段、「脊椎だより」が出来上がりました。年明け早々に出す予定が、時間がすぎるのははやいもので、もう春の暖かさを感じる頃となりました。

股関節便りの内容の充実さに比べたら、スタッフも少なく、力不足ではありますが、少しずつ充実させていきたいと思っておりますので、皆様のご意見、ご質問、近況報告などなんでもかまいませんので、編集局のほうまでどしどしお寄せ下さい。

ごあいさつが遅れましたが、脊椎だよりを担当させていただくことになりました整形外科医局の大曲弘子と申します。どうぞよろしく申し上げます。

お便り
宛先



〒849-8501 佐賀市鍋島5丁目1番1号
佐賀医科大学整形外科内 脊椎だより編集局 大曲まで
TEL : 0952-34-2343 FAX : 0952-34-2059
メールアドレス seikei@post.saga-med.ac.jp